

創刊にさいして

2017年1月1日に「国際タンカ協会」を設立し、*INTERNATIONAL TANKA* を、年2回発行してゆくようになった。これは1992年に日本歌人クラブが創刊し25年間継続したタンカ・ジャーナルが終刊になることの結果であった。終刊時に会員であった人々が、タンカ・ジャーナル創刊時の先人達の意志を現在に至るまで継承し、さらに発展させてゆこうとする強い志を有していたのである。私はそれを心から誇りに思っている。

すなわち日本固有の伝統定型詩である短歌を世界に向けて発信してゆくと同時に、世界のタンカ愛好者たちの作品を一つの雑誌に掲載することによって、人間としての互いの理解を深め、世界平和に貢献したいというものである。

短歌は1300年以上の歴史をもつ日本最古の定型詩であり、日本文学の背骨をなすものである。それは俳句を生み、連歌を生み、狂歌、川柳を生み、現在もさらに詠み継がれている唯一の詩形である。世界でもこうした息の長い文学は他に見出すことはできない。

我々の先祖からの遺産である短歌は、日本語の音数律に立脚した「調べ」の文藝である。

その特質を、実作を通して伝達するために我々日本人は、短歌とTANKA（外国語タンカ）との併記を旨とし、また海外のTANKAを、できるだけ短歌形式で和訳してゆきたいと思っている。短歌形式で和訳できない作品は、TANKAとして認めたくないという日本の短歌制作者も少なくないし、その主張には我々も賛同している。

現在本誌において、日本人歌人と海外歌人との比率は、ほぼ同数になった。1992年のタンカ・ジャーナル創刊当時、日本在住のローレンス神父以外は日本人ばかりの10名で出発した雑誌が今、国内、海外ほぼ同数の、しかも50名近い志を同じくする歌人集団で出発できることになった。しみじみとその幸せを思う。皆様の支持を感謝している。